

令和7年5月26日

自己点検・評価 報告書 (令和6年度)

学校法人 武田学園
専門学校ビーマックス

1. 専門学校ビーマックスの教育目標

創設時の岡山会計学館 経理専門学校時代より一貫して大切にしていることは、社会に出て活躍できる人財を輩出することである。具体的には以下の文言で共有している。

- ・明るく・素直に・元気に働き続けられる人を育成すること
- ・数字に強くなり、所属した組織で重要な仕事を任される人を育てること
- ・夢を抱き、その実現のために積極的・献身的に学び、働き、周囲を巻き込んでいく人を育成すること。

そのために、専門力育成に特化したカリキュラム編成ではなく、人間力向上にも重きを置いてカリキュラムを組んでいる。また、教職員にも自らの専門領域に閉じこもることが無いように指導している。経験の無いこと、前例の無いこと、学外での取り組み等にも果敢に挑戦し、自らの人としての幅を広げて行くことを推奨している。学生も教職員も共に成長し続けるために、チャレンジの場を数多く提供することが、当校の存在価値を高めると考えている。

2. 令和6年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標・計画

令和6年度の重点項目は以下の3点であった。

- ① 学園独自科目・行事の新開発、ブラッシュアップ
(新入生研修・セルフマネジメント・ヒューマンスキルプログラム・社会貢献活動等)
- ② 基礎力の強化
(対人関係調整力・コミュニケーション力・文章力・計算力・パソコン操作等)
- ③ 新学科 又は新部門設立に向けた情報収集、準備、活動の継続

5年ぶりに新入生の宿泊研修を復活させる等、学生が体験・経験を積める機会を増やしていった。痛感したのは、一度途切れた流れを再度作ることの大変さであった。集団行動を行うたびに、小さな問題が頻発した。改めて継続し続けることの重要性を感じる一年であった。個の大切さ、自分らしさの追求が重要視される中で、周囲の目や感情にも気を配ることができる、利他の精神を持った人材を輩出していくことが重要である。そのためにも学生個人の個性(長所や得意分野)を伸ばし、活かすと同時に、社会の一員としての集団意識、行動を身につけさせていくべく、機会を与え続け、気づかせていくことが求められている。そして、転ばせないための指導ではなく、転んでもどう立ち上がり、向かっていくべきかを学ばせ、自分本位な個性ではなく、周囲と調和のとれる個性を身につけられるよう尽力していく。

これらは一朝一夕で改善されるものではないため、令和7年度も重点項目を継続していく。

令和7年度 重点項目

- ① 学園独自科目・行事の新開発、ブラッシュアップ

(新入生研修・セルフマネジメント・ヒューマンスキルプログラム・社会貢献活動等)

② 基礎力の強化

(対人関係調整力・コミュニケーション力・文章力・計算力・パソコン操作等)

③ 新学科 又は新部門設立に向けた情報収集、準備、活動の継続

3. 評価項目の達成及び取組状況

自己点検・自己評価を行った結果を、評価項目別に記す

4：適切

3：ほぼ適切

2：やや不適切

1：不適切

※生涯学習センターは一部文言を入れ替えて実施している（入れ替え部分を欄外に記載）

(1) 教育理念・目標

評価項目	前回	評価
1-1 学校の理念・目標・育成人材像は明確に示されているか	4	4
1-2 学校の理念・目標の実現に向け、特色ある活動が行われているか。	4	4
1-3 学校の理念・目標は教職員に共有されているか。	3	3
1-4 学校の理念・目標・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等 ¹ に周知されているか。	3	3
1-5 学校の将来構想を描き、先を見据えた中期的構想を抱いているか。	3	3

教育理念・目標に対する取り組み、問題点など

- ・学園経営理念は短く意識しやすい文言にまとめている。

【武田学園経営理念】

武田学園は教育活動と企業コンサルティングを通して人と企業を活かし、その結果として人と企業から活かされる学園であることを第一義とする。そのために我々は時代を先取りし、時代に適応して生き抜くために必要な教育ソフトとハードを広く社会に提供し、人と企業が勇気と希望を持って成長できるように指導する使命を持つ。

- ・本校では2005年度より、入学前三者面談（1月～3月）を全入学生対象に実施している。1組につき約1時間、その場で学園の理念・方針などは具体的な事例を交えてお伝えしている。保護者から本音や要望が聞けることも多々あり、有益な時間であると考えている。また、入学後の三者面談も全学科で1回以上実施している。

- ・生涯学習センターでは中期的構想に基づき、社会人の働く環境（介護・子育て等のワークライフバランス）を考慮したキャリアの在り方を提案できるような社会人教育の提案を引き続き行っている。また、高齢

¹ 学生・保護者になる言葉「社会人受講生・企業」

者の受講生も多くなったところから対応を考えていかなければならないということも課題となっている。

(2) 学校運営

評 価 項 目	前回	評価
2-1 理念・目標に基づき、学校運営方針が策定され、組織内で共有されているか。	4	4
2-2 人事考課制度、給与制度は整備され、共有されているか。	3	3
2-3 意思決定システムは確立されているか。	3	3
2-4 学生・保護者 ² の意見・要望を反映した運営がなされているか。	3	3
2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	4

学校運営に対する取り組み、問題点など

- ・1月・4月に教職員全体会を実施し、その場で経営責任者から中長期展望および、年度重点方針が伝えられ、それを基に各学科が具体的方針・施策を策定・実行している。
また、3月に部門別発表会を行い、学科・部門毎の年度計画、年度目標に関する発表、振り返りを行っている。
- ・年2回（前期・後期）授業アンケートを全学生対象に実施している。その際に、授業以外の意見・要望も記載できるように自由記載欄を設け学生の声を反映している。
- ・教職員同士はクラウドサービスのドライブを活用して、同一ファイルを共有、共同で編集を行うようにして、業務効率化を図っている。また、このドライブには、学生も全員個人アカウントを持っており、教職員・学生間でもファイルや動画の共有ができ、印刷・配布・回収等の雑務を減らすことができる。また問題解説動画を作成しアップロードしている。そのため就職活動等で授業をオンタイムで受講できなくても、後から視聴・受講したり、理解が不十分だった部分を再視聴したりできるようにしている。
- ・社会人教育の運営に関する「民間教育訓練期間における職業訓練サービスガイドライン」に則り運営を行っている。（研修受講）しかしながら、「ガイドライン適合事業所認定」は現在受けていない。

(3) 教育活動

評 価 項 目	前回	評価
---------	----	----

² 学生・保護者になる言葉「社会人受講生・企業」

3-1 教育理念に沿って、各学科 ³ の目標・方針が策定されているか。	4	4
3-2 学科 ⁴ 等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3
3-3 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	4
3-4 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	4
3-5 関係分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	4
3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3	3
3-7 職業教育に対する外部関係者 ⁵ からの評価を取り入れているか。	4	4
3-8 成績評価・単位認定、進級・卒業判定 ⁶ の基準は明確になっているか。	4	4
3-9 関連業界や外部とのネットワーク構築に優れた教員（本務・兼務含む）を確保し、外部との良好な関係を築けているか。	4	4
3-10 新たな知識・技術等を修得するための研修や外部講座に教職員を派遣しているか。	3	3
3-11 職員の能力開発のための研修・勉強会等が行われているか。	3	4

教育活動に対する取り組み、問題点など

- ・教育課程編成委員会を年間 2 回実施し、委員の方々から貴重なアドバイス・ヒントをいただくことができている。
- ・エアライン学科では、従来のエアライン系の基礎知識・技術習得、語学（特に英語力）を伸ばすための体制構築（習熟度別のクラスや補習などのサポート体制強化）ができている。また客室乗務員を希望する学生も増えているため、その要望にも応えられるよう、客室乗務員経験者を教員に迎え、きめ細かく教育を行っている。
- ・エアライン学科 1 年生が参加する岡山空港でのインターンシップは、2024 年度は約 3 カ月半間行わせていただいた。また 2024 年度より、岡山空港に加えて、高松空港と広島空港でも約 1 カ月間受け入れ

³ 部署

⁴ 職業訓練及び企業研修

⁵ 外部関係者の定義が不明→受講生アンケートは毎回取って改善に取り入れている

⁶ 成績評価・修了判定

て頂くことができた。

- ・ブライダル・ホテル学科1年生は、インターンシップ実施前の5～7月に、ANA クラウンプラザホテル岡山、ファインプランニング社による THE STYLE での、ベッドメイキングや清掃、会場設営、料飲サービスとの現場実習をさせていただいた。特にバックヤードの研修（シーツ、枕カバー等の回収作業）では、学生が意識しない地味ではあるが、必要な業務を知り、経験させていただくことができた。
- ・ブライダル・ホテル学科の1年生のインターンシップは、2024年度も9月から12月までの約4カ月実施させていただいた。県内はもとより、広島・大阪・京都・神戸・沖縄等、多くの企業・施設で受け入れていただき、実施させていただいている。毎年開催している2月のインターンシップ発表会には、多くの施設の方々（オンライン参加含む）が参加して下さり、ご意見や激励をいただいた。
- ・ブライダル・ホテル学科では、7月・2月と2回、式場をお借りして、学生がプロデュース・運営する披露宴を実施した。7月は現役学生に新郎・新婦役を務めてもらう模擬披露宴、2月は2023年度に引き続き、本物の結婚式、披露宴を運営・実施しており、同一年度内に、模擬披露宴、本物の結婚式・披露宴とステップを踏めるカリキュラムになっている。
- ・公務員学科では2024年度も造山古墳蘇生会にご協力いただき、古墳ガイドとして学生が活動をしている。小学生の校外学習の際にガイド役として同行するのだが、異なる年代の方とのコミュニケーション、予定外な出来事への対応など、体験することでしか身につけられないことを学べている。また一部学生は倉敷・玉島地区で農業に従事されている方のご協力により、農業体験（田植え・桃の栽培）をさせていただくことができている。
- ・全学生を対象とした授業アンケートを年2回、全科目分実施している。概要は以下の通り
☐ 4段階評価（4＝良い、3＝まずまず良い、2＝あまり良くない、良くない）
☐ 各授業4項目実施（授業理解・講義方法・内容構成・授業価値）
☐ 数値評価以外に講師ごとに良い点・不足の点を記述してもらう。
☐ その他、意見、感想欄を設けて記述してもらう
☐ 回収後、集計し全教員に公開
標準的な数値に届かない、前回数値から改善が見えない、急激に数値を落としている場合などは、各学科長の指導のもと、改善計画を練り、実行している。
- ・2024年度、生涯学習センターは、公共職業訓練及び在職者向けの生産性向上支援訓練（デジタル活用）を中心に実施してきた。公共職業訓練の定員充足率は全国平均が73%となっており、本センターも同等の充足率である。また訓練内容に関しては、DX リテラシーの内容をすべてのコースに対して導入することとしており、幅広い業界・業種・職種の情報提供及びデジタルカリキュラムが求められているため、それらを充足する内容を構築し取り組んでいる。

(4) 学修成果

評 価 項 目	前回	評価
4-1 就職率（公務員試験合格率含む）の向上が図られているか。	4	4

4-2 資格取得率の向上が図られているか。	3	3
4-3 退学率 ⁷ の低減が図られているか。	4	3
4-4 卒業生・在校生 ⁸ の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3	3
4-5 卒業後 ⁹ のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3	3

学修成果に対する取り組み、問題点など

・就職サポート重点的項目

- ☐ 企業研究のサポート
- ☐ 履歴書、エントリーシート作成のサポート（ヒアリング・添削）
- ☐ 過去の試験情報の提供（先輩の受験報告書閲覧）
- ☐ 面接指導（模擬面接の実施）
- ☐ 個別面談（悩みの相談など）

これらを、各学科担任や担当講師、キャリア支援センター職員が協同して行っている。

- ・航空業界は引き続き人員不足である。エアライン学科 12 名中 11 名が航空業界（地上職員）から採用を頂いた。特に地方の空港では人手が大きく不足しているところもあり、要請を受けて 10 月からの早期就業を行った。
- ・ブライダル業界・ホテル業界共に人員は不足しており、内定は頂きやすい環境にある。ブライダル・ホテル学科では業界外を志望した 7 名を除く 16 名が業界から内定を頂いた。そのうち 5 名がホテルへ就職している。学科内のホテル志望者は年々、増加傾向にある。また、インターンシップを経験した後、違う業界を希望する学生には、希望の業界・企業への就職サポートを行い、無事に就職することができている。
- ・資格取得をサポートするために、授業のみならず、授業外（放課後等）補習、個別対応の時間を適宜取っている。社会に出て活躍するために、最低限必要な知識・スキルについては卒業必須資格として設定しており、たとえ卒業可能単位数を取得していても、必須資格が未取得の場合は留年の措置を取っている。
- ・近年の卒業生が頻繁に訪ねてきてくれたり、卒業生を招いての講演、講義を行ったりするため、新入社員や若手社員側から見える不足点の聞き取り量は豊富である。また、卒業生に対して、キャリア支援センター職員が定期訪問し、勤務状況の聞き取りや直接面談も行っている。そこで得られた卒業生情報は教職員の WEB 掲示板等で情報共有されている。

⁷ 退所率となるが、社会人の場合コントロールが困難（事例：介護・病気・早期就職）

⁸ 受講生（すべての受講生に関して把握できていない。）

⁹ 訓練修了後（大きな改善には至っていない）

- ・生涯学習センターが実施している職業訓練に関しては、ほぼ100%の修了率ではあるが一部退所を余儀なくされる場合もある。その背景は、家庭環境の問題（介護・育児・家族の病気）によるものが殆どである。更に増加傾向にあるのが精神疾患を抱えた受講生であり、受講の継続面及び公的機関にも働きかけ連携した対応が必要であると考えている、また、そのほかの健康問題を抱えた受講生も増えており職業訓練全体の問題でもあると考えている。

(5) 学生支援

評 価 項 目	前回	評価
5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	4
5-2 学生相談に関する体制は整備されているか。	4	4
5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	4
5-4 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか。	3	3
5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	3	3
5-6 学生の生活環境への支援は行われているか。	3	3
5-7 保護者と適切に連携しているか。	4	4
5-8 卒業生をフォローアップする体制が整備され、機能しているか。	3	3
5-9 同窓会が組織化され、活発に活動をしているか。	3	3
5-10 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3	3

学生支援に対する取り組み、問題点など

- ・学生への支援を学校全体で行っている。特に、対面式個人面談を数多く実施してサポートしている。
- ・学生の健康管理については、学生本人の自己管理（食事摂取・十分な睡眠、休養を取る等）が最も重要な要素である。生活リズムが乱れている学生や、過剰なアルバイト等で規則正しい生活が送れていない学生には、担任が指導・説諭を行っている。
- ・学生への経済的支援策で、「入学時特待生制度」「進級時特待生制度」「卒業時報奨金制度」を設けている。また、株式会社ウェーブハウス様のご支援の下、「ウェーブハウスコンテスト（旧：ウェーブハウス奨学金制度）」も実施している。令和3年度より、「修学支援新制度」の対象校の認定を頂くことが出来、複数の学生が活用させていただいている。

- ・学生数の数倍の貸与用マスクや殺菌消毒用アルコール液を準備、備蓄できている。各号館に簡易的な保健室や救急箱・AED も配備している。また、教職員・学生の一部は救急法安全講習を受講修了している。
- ・学校公認のクラブが7部存在し、のべ140名以上が所属していた。(兼部可能)各部に担当顧問教員がつき、対応している。部活動予算もあり、消耗品の購入等に充てている。
令和6年度は野球部が全国大会に出場した。
- ・全ての学科で、卒業生を授業時間に招いて、現場の声を直接学生に伝える機会を設けている。
- ・保護者との連携に力を注いでいる。子息の成長を感じていただくこと、学生からの感謝の言葉を伝えること等に重点を置いている。定期的に送付する履修状況報告書、卒業発表会、卒業式典内で実施している感謝の言葉(感謝の手紙を本人が読み上げる)等で学生本人の想いを保護者に届けている。保護者の感動する姿や喜ぶ姿が学生の成長に繋がっている。
- ・同窓会が組織されており、2008年には創立30周年記念式典、祝賀会を岡山プラザホテルにて実施した。また、2018年には創立40周年を記念し、保護者招宴会をANAクラウンプラザホテルにて举行している

(6) 教育環境

評 価 項 目	前回	評価
6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	4
6-2 学内外の実習施設、インターンシップ、外部研修等について十分な教育体制を整備できているか。	3	3
6-3 ¹⁰ 防災に対する体制は整備されているか。	3	3

教育環境に対する取り組み、問題点など

- ・各種検定試験会場として施設の利用を行っている。また、外部企業のセミナーの実施に利用していただけるように案内もしている。
- ・岡山市消防局の指導のもと、適切な防災設備(防火シャッターの自動化等)の刷新、設置を行っている。各建物に防火責任者(講習受講済み)を配置している。自主的な避難訓練も実施している。

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	前回	評価
---------	----	----

¹⁰ 防災訓練等を行っていない。

7-1 学生募集活動は、適正に行われているか。	4	4
7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	4
7-3 学納金は妥当なものとなっているか。	4	4

学生の受入れ募集に対する取り組み、問題点など

- ・学生募集活動はオープンキャンパス開催、学科イベント举行、高校訪問・高校内ガイダンス授業への参加等を中心に行っている。その際に、学園として都合の良い情報や成果だけでなく、不利になるような情報、結果も隠さずに伝えることで、信頼関係の構築を真摯に図っている。(学生の退学事例、就職活動結果等)
- ・全学生が行う取り組みで履修状況報告書の作成、送付がある。これはお世話になった恩師や両親に、学校での学びや現在の所感を報告書形式でまとめ、郵送する取り組みである。定期的に送付するため、学生の内面の変化・成長を文面から感じていただき、好評である。
- ・物価上昇を鑑みて、学納金を上げることを検討し、理事会・評議員会の承認を経て、申請を行い、認可をいただいている。令和8年度入学生より適用予定である。

(8) 財務

評価項目	前回	評価
8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	4
8-2 財務について会計監査が適正に行われているか。	4	4
8-3 財務情報公開の体制整備はできているか。	4	4

財務に対する取り組み、問題点など

- ・財務情報の公開を行っている。

(9) 法令等の遵守

評価項目	前回	評価
9-1 法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4	4
9-2 個人情報に関し、その保護のための政策がとれているか。	3	3
9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4	4

9-4 自己評価結果を公開しているか。	4	4
---------------------	---	---

法令等の遵守に対する取り組み、問題点など

- ・個人情報保護のためにルールを守っている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	前回	評価
10-1 ¹¹ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3	3
10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	4
10-3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。	4	4

社会貢献・地域貢献に対する取り組み、問題点など

- ・授業内での社会貢献活動（三門中学校、三門幼稚園等）を行っている。また、授業外でも関係施設からの委託や岡山駅西口交番と連携した企画等を学生に提示し、地域ボランティア活動を奨励している。

以上

¹¹ 検定会場等の貸し出しを含めているが、この項目に該当するかは不明